TADOKU JUNIOR えいごの名作詩 ★★★☆☆ ふつう 491語

The Spider and the Fly

クモとハエ

Mary Howitt（1919年の本） 原文そのまま 朗読：Clarica

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？ 「わたしのお部屋へどうぞ」と、あまい言葉でハエをさそうクモ。ハエははじめはことわりますが、ほめ言葉を聞くうちに……。



"Will you walk into my parlor?" said the spider to the fly;
"'Tis the prettiest little parlor that ever you did spy.
The way into my parlor is up a winding stair,
And I have many curious things to show when you are there."
"Oh no, no," said the little fly; "to ask me is in vain,
For who goes up your winding stair can ne'er come down again."

"I'm sure you must be weary, dear, with soaring up so high.
Will you rest upon my little bed?" said the spider to the fly.
"There are pretty curtains drawn around; the sheets are fine and thin,
And if you like to rest a while, I'll snugly tuck you in!"
"Oh no, no," said the little fly, "for I've often heard it said,
They never, never wake again who sleep upon your bed!"

Said the cunning spider to the fly: "Dear friend, what can I do
To prove the warm affection I've always felt for you?
I have within my pantry good store of all that's nice;
I'm sure you're very welcome—will you please to take a slice?"
"Oh no, no," said the little fly; "kind sir, that cannot be:
I've heard what's in your pantry, and I do not wish to see!"

"Sweet creature!" said the spider, "you're witty and you're wise;
How handsome are your gauzy wings; how brilliant are your eyes!
I have a little looking-glass upon my parlor shelf;
If you'll step in one moment, dear, you shall behold yourself."
"I thank you, gentle sir," she said, "for what you're pleased to say,
And, bidding you good morning now, I'll call another day."

The spider turned him round about, and went into his den,
For well he knew the silly fly would soon come back again:
So he wove a subtle web in a little corner sly,
And set his table ready to dine upon the fly;
Then came out to his door again, and merrily did sing:
"Come hither, hither, pretty fly, with pearl and silver wing;
Your robes are green and purple; there's a crest upon your head;
Your eyes are like the diamond bright, but mine are dull as lead!"

Alas, alas! how very soon this silly little fly,
Hearing his wily, flattering words, came slowly flitting by;
With buzzing wings she hung aloft, then near and nearer drew,
Thinking only of her brilliant eyes and green and purple hue,
Thinking only of her crested head. Poor, foolish thing! at last
Up jumped the cunning spider, and fiercely held her fast;
He dragged her up his winding stair, into the dismal den—
Within his little parlor—but she ne'er came out again!

And now, dear little children, who may this story read,
To idle, silly, flattering words I pray you ne'er give heed;
Unto an evil counselor close heart and ear and eye,
And take a lesson from this tale of the spider and the fly.

「わたしのお部屋へ来ませんか？」と、クモはハエに言いました。
「あなたが見たこともないほど、きれいな小さいお部屋ですよ。
お部屋へは、くるくるまわった階だんをのぼっていきます。
来てくだされば、めずらしいものをたくさんお見せしますよ。」
「いいえ、いいえ」と小さなハエは言いました。「さそってもむだですよ。
あなたのくるくる階だんをのぼった者は、二度と下りてこられないんですもの。」

「そんなに高くまでとんで、きっとおつかれでしょう。
わたしの小さなベッドで休みませんか？」と、クモはハエに言いました。
「まわりにはきれいなカーテン。シーツはうすくて上等です。
しばらく休みたいなら、ふんわりくるんであげますよ！」
「いいえ、いいえ」と小さなハエは言いました。「だって、よく聞きますもの。
あなたのベッドでねた者は、二度と、二度と目をさまさないって！」

ずるいクモはハエに言いました。「ねえ、お友だち、どうしたら
わたしがずっとあなたを大切に思ってきたことを、わかってもらえるでしょう？
わたしの食べ物おき場には、おいしいものがどっさりあります。
どうぞえんりょなく――ひと切れいかがですか？」
「いいえ、いいえ」と小さなハエは言いました。「おじさま、それはできません。
あなたの食べ物おき場に何があるか聞いていますから、見たくありません！」

「かわいい方！」とクモは言いました。「あなたはかしこくて、ちえがある。
そのすきとおった羽の、なんとうつくしいこと。その目の、なんとかがやいていること！
わたしのお部屋のたなに、小さなかがみがあります。
ちょっと入ってくだされば、ご自分のすがたが見られますよ。」
「ありがとう、やさしいおじさま」とハエは言いました。「ほめてくださって。
では、きょうはこれでさようなら。また今度うかがいますね。」

クモはくるりと向きをかえて、自分のすみかに入りました。
おばかなハエが、すぐにもどってくると、よくわかっていたからです。
そこでクモは、すみっこにこっそり、ずるいあみをはりました。
そして、ハエを食べるためのテーブルのしたくをととのえました。
それから、またドアのところに出てきて、楽しそうに歌いました。
「おいで、おいで、かわいいハエさん、しんじゅと銀の羽のハエさん。
あなたの服はみどりとむらさき、頭にはかんむりのようなとさかがある。
あなたの目はダイヤモンドのようにかがやき、わたしの目はなまりのようにどんよりしている！」

ああ、ああ！なんとすぐに、このおばかな小さいハエは、
クモのずるい、おせじの言葉を聞いて、ふらふらととんできたことでしょう。
羽をブンブンさせて空中にとまり、それから、だんだん近よっていきました。
自分のかがやく目と、みどりとむらさきの色のことばかり考えて、
自分のとさかのある頭のことばかり考えて。かわいそうな、おろかなハエ！とうとう
ずるいクモがとびだして、ハエをぎゅっとつかまえてしまいました。
クモはハエを、くるくる階だんの上の、くらいすみかへひっぱっていきました――
小さなお部屋の中へ――そしてハエは、二度と出てきませんでした！

さあ、このお話を読む、小さなみなさん、
なまけた、おばかな、おせじの言葉には、どうか耳をかさないでください。
わるいことをすすめる人には、心も耳も目もとじて、
このクモとハエのお話から、教えを学んでください。

たんご と クイズ クモとハエ

spider クモ	**fly** ハエ	**stair** 階だん
curtains カーテン	**wings** 羽	**looking-glass** かがみ
web クモのす・あみ		

Q1 クモは、ハエをどこへさそった？

① 自分のお部屋　② 花ばたけ　③ 池のほとり

Q2 ハエが、さいごにクモのところへ行ってしまったのはどうして？

① おなかがすいたから　② ほめ言葉を聞いて、いい気になったから　③ 道にまよったから

Q3 さいごに作者は、子どもたちに何と言っている？

① クモをこわがらないで　② 早くねましょう　③ おせじの言葉に耳をかさないで

こたえ

Q1 ①　「Will you walk into my parlor?」とさそいました。parlor は、お客さんをまねくお部屋のことです。

Q2 ②　目や羽をほめるクモの言葉を聞いて、自分のうつくしさのことばかり考え、近よってしまいました。

Q3 ③　なまけた、おばかな、おせじの言葉には耳をかさないで、とよびかけています。このお話の教えです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19993（Mary Howitt、1919年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Clarica（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。